

考古学概論 2

担当教員 上原 静

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

考古学の基本的なものの見方、考え方、理論を学び、また、発掘調査と得られた資料の整理を通して、歴史文化の復元過程を概説する。多様化し精緻化する現代考古学の状況を概説する。

【授業の展開計画】

- 1、考古学（定義、目的、考え方）
- 2、考古学の歩み（考古学の発達史①）
- 3、考古学の歩み（考古学の発達史②）
- 4、ものの形と時間（時代・時期区分）
- 5、ものの広がりと集団（文化圏）
- 6、道具の用途と機能（目的をもって変化する道具）
- 7、考古学の調査（陸地、水中、上空からの多様な調査と記録）
- 8、資料と整理（考古学資料の整理から分析まで）
- 9、先史考古学（形質人類学、地質学、岩石学、古生物学研究領域との融合）
- 10、歴史考古学（文献史学、金石文学、美術史、城郭研究領域との融合）
- 11、環境考古学（自然遺物、DNA、寄生虫などの研究領域との融合）
- 12、動物考古学（動物骨、魚貝類研究領域との融合）
- 13、植物考古学（植物遺体、プラントオパール、脂肪酸分析研究領域との融合）
- 14、民俗考古学（民族誌、民具研究領域との融合）
- 15、沖縄県立博物館展示構成、内容等の解説見学

【履修上の注意事項】

3分の2以上出席すること。遅刻・欠席は減点の対象とする。

【評価方法】

テストを行う。

【テキスト】

講義の都度、資料を配布する。

【参考文献】

沖縄県史 考古編

視聴覚教育メディア論

担当教員 翁長 直樹

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

博物館概論

担当教員 稲福 政斉

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本科目は博物館学芸員を目指すうえで最も基礎的な事項である、博物館の設置の意義、歴史、種類、機能等をはじめ、学芸員の果たす役割や博物館関係法規、博物館倫理といったことに関する理解をねらいとするものである。また、講義名に概論とあるように学芸員養成科目全体を俯瞰し、相互の関連等にも意を払いつつ授業を進める。

【授業の展開計画】

授業は講義形式により進め、博物館学芸員に求められる博物館についての基礎的な知識を中心に、おおむね次に掲げる内容を扱う。なお、博物館現場の今日的な実情や課題等についても、随時授業の内容に反映させていく予定である。

- 1 博物館概論について — オリエンテーション
- 2 博物館とは
- 3 博物館学の歴史と課題
- 4 博物館の機能と分類
- 5 世界と日本の博物館史
- 6 沖縄の博物館史
- 7 現代沖縄の博物館
- 8 博物館法をよむ①
- 9 博物館法をよむ②
- 10 博物館における調査研究活動
- 11 小考査（博物館法について）
- 12 博物館における教育・普及活動
- 13 博物館と学芸員の職業倫理
- 14 博物館と生涯学習
- 15 これからの博物館 — 現状と課題

【履修上の注意事項】

この授業では、展開計画に示す内容はもとより、情報を的確に処理し、それに基づき考え理解を深めるといふ、学芸員に求められる資質の修得もあわせて目的とする。そのため、講義のなかで重要と思われる箇所は各自記録してまとめ、内容の十分な理解に努めること（レジュメや板書は要点を示す程度にとどめる）。なお、課題等は締切後の提出を一切受付けないので、提出期限は厳守するよう留意されたい。

【評価方法】

出席状況、考査、提出物（レポート）により成績評価を行う。なお、詳細については初回講義において説明を実施する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。
毎回配布するレジュメおよび資料により、講義を進める。

【参考文献】

■全国大学博物館講座協議会西日本部会 編 『概説 博物館学』2002年 芙蓉書房出版

博物館学史

担当教員 比嘉 明子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館について、博物館の成り立ちや博物館学の流れを知るとともに、表から見える活動だけではなく、保存や研究といった博物館の土台を支える学芸員の仕事や、博物館に関わる人びと等について学ぶ。学芸員に必要な内から博物館をみる視点を養うことを目指す。

【授業の展開計画】

博物館の成り立ちや役割、機能について、博物館の活動に即しながら概観する。学芸員の働きだけでなく、博物館に関わる人びとの仕事や動きについても紹介する。博物館という場でどのような活動が行われ、さらに地域との関わりの中で展開している活動についてもみていきたい。博物館学の流れにも触れながら、博物館の抱えている問題点についても考えていく。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明
2	博物館のはじまり (1) - 西洋
3	博物館のはじまり (2) - 日本/沖縄
4	博物館学史 (1)
5	博物館学史 (2)
6	博物館学史 (3)
7	博物館の役割 (1) - 収集/保存
8	博物館の役割 (2) - 展示/教育普及
9	博物館に関わる人びと (1) - 学芸員/博物館スタッフ
10	博物館に関わる人びと (2) - ボランティア/来館者
11	博物館という場 (1) - 管理・運営
12	博物館という場 (2) - 建物・施設
13	博物館という場 (3) - 地域
14	博物館をめぐる問題
15	博物館のこれからを考える
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

普段から博物館や美術館、資料館等へ足を運び、関心を持っておくこと

【評価方法】

出席状況、講義内容に関するコメント、中間・期末レポートにより総合的に評価する

【テキスト】

講義ごとにプリントを配布する

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する

博物館学評論

担当教員 比嘉 明子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

博物館について主に来館者の視点から概観し、多角的に博物館を捉えることを目指す。博物館の抱える問題点や課題等についても言及し、これからの博物館がどうあるべきかを実際の博物館体験を通して、考察する。

【授業の展開計画】

博物館体験は私たちに何をもたらすのだろうか。来館者は博物館体験をどのように記憶しているのか、何を期待しているのか等、来館者の博物館での行動や視点を学び、博物館を評価する基準を考える。またグループで実際に博物館へ行き、来館者からみた博物館がどのようなものかを体験し、その中で博物館を取り巻く状況や問題点、課題等についても考察する。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要説明
2	博物館を評価する
3	博物館へ行く前に (1)
4	博物館へ行く前に (2)
5	博物館体験 (1)
6	博物館体験 (2)
7	博物館体験の後で (1)
8	博物館体験の後で (2)
9	博物館体験の後で (3)
10	それぞれの博物館体験
11	[グループワーク] 博物館を評価する基準を考える
12	[グループワーク] 博物館見学
13	[グループワーク] 発表 (1) : 博物館体験・評価
14	[グループワーク] 発表 (2) : 博物館体験・評価
15	博物館体験を創造する
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

普段から博物館や美術館、資料館等へ足を運び、関心を持っておくこと

【評価方法】

出席状況、講義内容に関するコメント、調査/発表、中間・期末レポートにより総合的に評価する

【テキスト】

講義ごとにプリントを配布する

【参考文献】

『博物館体験 学芸員のための視点』ジョン・H・フォーク/リン・D・ディアーキング・著/高橋順一・訳/雄山閣/1996年

博物館教育論

担当教員 前田 一舟

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

博物館経営論

担当教員 一翁長 直樹

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

博物館資料保存論

担当教員 大湾 ゆかり

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。

博物館で取り扱う「もの」資料を適切に保存する上で、資料の材質、保存環境の整備、複製作成、修復作業にいたるまで、基本となる考え方や処理方法等を紹介する。また、資料の取り扱い方や保存容器等の作成方法についても学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	博物館における資料保存の意義
2	博物館資料の保存環境 1 資料保存の諸条件とその影響（温湿度、光、振動、大気等）
3	博物館資料の保存環境 2 生物被害と I P M（総合的有害生物管理）
4	博物館資料の保存環境 3 災害の防止と対策（火災、地震、水害、盗難等）
5	資料の保全 1 状態調査・現状把握
6	資料の保全 1 状態調査・現状把握
7	資料の保全 2 資料の材質
8	資料の保全 2 資料の材質
9	資料の保全 3 資料の保存処置・修復
10	資料の保全 3 資料の保存処置・修復
11	資料の保全 4 資料の複製・保護処置
12	資料の保全 5 資料の梱包と輸送
13	環境保護と博物館の役割 1 地域資源の保存と活用（エコミュージアム等）
14	環境保護と博物館の役割 2 文化財の保存と活用（景観・歴史的環境を含む）
15	資料保存論のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

受講者数によって実習等を行うこともあり、道具や材料の準備を要することあり。

【評価方法】

1. 出席日数が3分の2に満たない者には、評価は与えない。
2. 出席状況と毎講義のアンケート及び課題（レポート）、試験の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

- ・石崎志志『博物館資料保存論』（K S 理工学専門書）2012、講談社

【参考文献】

- ・東京文化財研究所編『文化財の保存環境』2011、中央公論美術出版
- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』2002、芙蓉書房出版
- ・東京造形芸術大学編『文化財のための保存科学入門』2002、角川書店

博物館資料論

担当教員 後田多 敦

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

博物館活動の中核である資料について、収集・整理・保管・管理・研究、展示という活動の基本的な技術を修得しながら、その技術の裏付けとなる方法論を獲得することを目標とします。また、資料の取り扱いを学ぶことで、「モノ」を通して博物館の社会における存在意義や役割と学芸員の職務について考え、仕事のなかで自ら技能と職業意識を高めることのできる姿勢を習得することも目標とします。

【授業の展開計画】

資料の収集・保存・活用などを具体的な実例を用いながら講義します。この講義では人文系・美術系の資料を中心に進めます。目的を持った資料収集や資料を使った研究、展示における資料の問題など、具体的な段階や局面における資料についての議論や活用の方法を講義します。また、地元の具体的な事例を取りあげることで、現場で実際に直面するだろう課題を身近に感じられるようにします。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・博物館資料論
2	資料と博物館
3	資料と学芸員
4	資料からみる沖縄の歴史と博物館
5	沖縄の資料と博物館Ⅰ
6	沖縄の資料と博物館Ⅱ
7	資料の取り扱いⅠ
8	資料の取り扱いⅡ
9	資料の取り扱いⅢ
10	資料と調査研究Ⅰ
11	資料と調査研究Ⅱ
12	資料の活用Ⅰ（展覧会と展示）
13	資料の活用Ⅱ（展示・公開）
14	博物館と資料を考える（まとめⅠ）
15	博物館と資料を考える（まとめⅡ）
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

博物館に限らずいろいろな場所を訪ねて実際に「モノ」を見て、資料や展示について考える機会を多く持つようにしてください。クラスの状況に応じて、講義内容は調整します。

【評価方法】

出席とレポート（1回）、試験で総合評価します。
30分以上の遅刻は欠席扱いとします。

【テキスト】

なし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新しい博物館学』（芙蓉書房出版、2008年）
加藤有次他編『博物館資料論（新版・博物館学講座5）』（雄山閣出版、1999年）
水藤真著『博物館を考える』（山川出版社、1998年）

博物館情報・メディア論

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

博物館や美術館に求められるものは、まず、鑑賞の場・空間の提供である。そして、歴史や芸術、文化を教育する場の提供でもある。その2つの効果的な提供（鑑賞と教育）を実施するには「伝える」という手法が目的別に必要になる。そのため、メディアの効果・効率のよい利用法を習得することは不可欠である。本科目は、「伝える」という原点に立ち、高齢化、少子化、生涯学習という時代にそったメディアの活用と役割を理解することができる。

【授業の展開計画】

第1回	講義	授業の内容確認とメディアの変遷
第2回	講義	メディアとは何か、情報とは何か
第3回	講義	博物館におけるメディアの意義、情報の意義
第4回	講義	メディアとは何か、情報とは何か
第5回	講義	情報教育の意義と重要性
第6回	講義	博物館活動において情報化の役割
第7回	講義	博物館の機能と扱う情報（データベース化とドキュメンテーション保管）
第8回	講義	博物館の機能と扱う情報（デジタルアーカイブの現状と課題）
第9回	講義	博物館における情報発信と管理（インターネットの活用と問題点）
第10回	講義	博物館における情報発信と管理（メディア制作の目標設定と評価法）
第11回	講義	情報機器の活用（必要とされる知識と技術）
第12回	講義	コミュニケーションを支えるICT
第13回	講義	知的財産権（著作権と特許）
第14回	講義	個人情報保護（肖像権）
第15回	講義	権利処理の方法

【履修上の注意事項】

学芸員資格取得希望者を想定した授業構成です。

【評価方法】

中間テスト、最終テスト、レポート、出席状況などを鑑み、総合的に評価する。

【テキスト】

講義に必要なテキスト・資料等は適宜配布する。

【参考文献】

博物館経営・情報論（放送大学教材）、新しい博物館学（芙蓉書房出版）、情報社会の文化（東京大学出版会）、情報・メディア・教育の社会（東信堂）など

博物館情報論

担当教員 稲福 政斉

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期後半

授業形態 一般講義

単位数 1

【授業のねらい】

今日の博物館において、学芸員には資料に関する膨大な情報を多くの人々が有効に活用できるデータベースの構築や管理、情報提供を求められた際の的確な対応能力、市民に対して知的、美的な興味を喚起させる情報発信手段への習熟など、情報の収集、整理、活用における広汎かつ高度な知識と技術に関する理解が不可欠である。本科目では博物館情報のもつ意義を考えるとともに、事例の調査と考察によって博物館における情報の提供と活用の方法等について学ぶことをねらいとする。

【授業の展開計画】

授業は講義と課題の調査および発表により構成する。

講義では博物館における情報についての基本的な考え方や知識を中心に、おおむね次に掲げる内容を扱う。

1. 博物館情報論とは
2. 博物館における情報の意義とその種類
3. デジタル情報とアナログ情報
4. 博物館における情報化の現状
5. 博物館資料のデータベース化
6. 展示におけるマルチメディアの活用
7. 博物館情報の今後

また、課題の調査および発表では、県内外の博物館に関する情報について実際に調査し、その成果の発表および質疑等をお互いにその内容を検討することにより、博物館における情報発信の現状やその役割、課題点などについて考察を深める。

なお、博物館現場の今日的な実情等についても、随時授業内容に反映させていく予定である。

【履修上の注意事項】

この授業では、情報を的確に処理し、それをもとに考え理解を深めるといふ、学芸員に求められる資質の修得もあわせて目的とする。そのため、板書やレジュメでは要点のみを示し内容を詳述しない。重要と思われる箇所は各自ノートなどにまとめ十分に理解することを要する。また、グループ単位での調査、発表が中心となるので、互いにおおいに討議を重ね、また分担協力して自主的に学習を進めていく姿勢を求める。

なお、課題等は締切後の提出を一切受付けないので、提出期限は厳守するよう留意されたい。

【評価方法】

本学の学部履修規程第16条に基づき、100点を満点とし、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可として評価を行う。

なお、評価対象は出席、グループ発表、提出物とし、採点基準については初回講義の冒頭で詳細を説明する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

毎回配布するレジュメおよび資料により、講義や実習を進める。

【参考文献】

- 加藤有次 他 編 『博物館情報論（新版・博物館学講座11）』1999年 雄山閣出版
- 石森秀三 『博物館経営・情報論』2000年 放送大学教育振興会

博物館展示論

担当教員 一翁長 直樹

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】